

令和 2 年度

第 4 回 奥州市立水沢中学校改築
基本構想及び基本計画検討委員会
会議録

令和 2 年 8 月 4 日

奥州市教育委員会

○ 開会、閉会等に関する事項

開催日時 開会 令和2年8月4日（火）午後6時
閉会 //

開催場所 水沢中学校 会議室

○ 出席委員の氏名

佐藤孝守 委員長
千葉正文 副委員長
千葉和仁 委員
朝倉啓二 委員
佐々木竜哉 委員
高橋光緒 委員
深谷夕子 委員
三浦光章 委員
木村清且 委員

○ 説明のため出席した職員の職及び氏名

田面木茂樹教育長、千葉昌教育部長、佐藤利康学校教育課長、及川協一教育総務課長、佐藤茂利教育総務課長補佐、大沼慶太上席主任

- ・ オブザーバー出席者
都市整備部都市計画課 及川信主任技師
- ・ 計画策定支援受託者
(株)綜企画設計仙台支店、秋保祥氏、佐藤卓也氏

○ 次第進行

- 1 開会
- 2 教育長挨拶
- 3 委員長挨拶
- 4 報告
前回会議録の確認
- 5 協議
基本構想及び基本計画案について
- 6 その他
- 7 閉会

○ 会議の概要

◎ 定足数 5 名に対し、現時点で出席者数は 9 名であり、委員会は成立する旨宣言。

1 開会

2 教育長挨拶

おばんでございます。本日は第 4 回の委員会にお集まりいただきありがとうございます。

今日は教室が会場となりました。本日の気温が高いため、学校さんの配慮によりエアコンの整備された教室を会場としたものです。私自身も昨年度整備したエアコンの稼働状況を見るのは初めてで、机は少々狭いですがよろしくお願いします。

前は、水沢中学校が地区においてどういう立ち位置にあるか、水沢の地域の伝統文化、心字の街、火防祭などの文化の中に水沢中学校があった。こうしたものをコンセプトに入れていってはどうかというお話もしました。

今回は、前回の委員会での御意見を反映した案としてお示しするという事で、さらに御意見をいただければと考えます。

さる 28 日には胆沢中学校を見学いただきました。何もない更地に建てた学校なので、良く工夫された配置が実現した素晴らしい学校であると捉えています。

建物というのは、自分の家を建てる時もそうだが、後からこうすればよかったということが出てくるもの、胆沢中学校でもそういう部分はあると思われるので、水沢中学校改築においてはそういう部分も反映していけるものと考えます。

委員皆様も見学されて感じたことをお話しいただければなと思います。それらは全て取り入れることは難しいが、できるだけ活かす方向で考えたいので、短い時間ではあるが忌憚のない御意見を頂戴したいと思います。

子供達が良い環境で学べる状況を作ってまいりたいのでよろしくお願いしたいと思います。

3 委員長挨拶

おばんでございます。只今教育長さんがおっしゃられたとおりであり、私から申し上げることはないですが、この間、胆沢中学校の見学があり委員の方々が多く参加されましたけども、いかがでしたでしょうか。こういう部分は良いなという点も、こうしたら良いのではないかな等、様々な感想をお持ちになったのではないのでしょうか。

私は、特に新型コロナウイルス感染防止対策を求められる最近の社会情勢から、『換気』について考えなくてはならないのではないかなという感想を持ちました。

校舎は密閉された状態で、冷暖房が効率的になるよう造られています。しかしながら、今回の新型コロナウイルス感染状況、これはいずれ収束に向かうにしても、同様の対策を求められる状況はしばらく続くのではないかな。そうすると、新しい学校については『換気』、空気の出入りについての配慮が必要と感じました。

委員の方々には、いろいろなお考えをお持ちと思われます。今日は策定支援業

務受託業者からの詳しい御説明等があるかと思しますので、それを踏まえ、さらに御意見をいただければと思しますのでよろしくお願いいたします。

◆ 事務局等のうち、新規(今年度初)参加者紹介

4 報告

事務局より、資料1の前回議事録に基づき、これまでの経過について報告した。

また、7月6日に水沢中学校、9日には胆沢中学校について、事務局担当職員と綜企画設計佐藤氏により、これまでの検討状況を踏まえた施設状況の再確認とヒアリングを実施したこと、また、7月28日には、市内中学校整備の事例として胆沢中学校見学を実施し、8名の委員に御参加をいただいたことを報告した。

報告内容について質疑なし。

5 協議

事務局より、資料2に基づき説明すること、前回検討いただいた基本構想及び基本計画の素案に対しいただいた意見等を踏まえ、修正・追加等の記載を行ったものを資料2として配布しており、詳細については、綜企画設計より、説明する旨述べた。

● 綜企画設計佐藤氏

水沢中学校及び胆沢中学校の見学で把握した要点を次のとおり述べる。

[水沢中学校について]

- ・ 普通教室は約30名程度在籍。奥行8.7m×幅7.4mである。奥行の余裕に対し幅はやや窮屈な印象。
- ・ 特別支援教室は知的、情緒それぞれ1室確保されており、大きさは普通教室と同じである。その他普通教室への通学が困難な生徒が使用する指導する教室が1室ある。また、1対1で指導するために1室確保されている。
- ・ 技術科目のために木工室と金工室があるが、金工室は授業では使われていない一方、用務員の施設維持管理のための作業スペースが必要だが、その作業室や用具置き場として便利に使用されている。
- ・ 理科室は2室確保されているが、第1理科室と第2理科室を行き来するには、一度1階に降りて迂回する必要がある、建物としての動線計画に問題があることが分かった。
- ・ 家庭科室は廊下が屋外にある開放廊下であり、悪天候時利用に支障がある。
- ・ 音楽室は2室あるが、担当教員配置が1名なので、利用としては1室となっている。
- ・ 2階職員室については、室温調整がしにくく、湿気や結露により書類管理が困難な状況。給湯室や更衣室は1階にあるので不便である。
- ・ 相談室が明確には整備されておらず、資料室や書庫等を相談室代わりとして適宜利用している状況。
- ・ 保健室については、普通教室2室分が確保されており広さ的には十分だが、専用のシャワーブースや、トイレ、カウンセリング兼感染症対策のための隔離室が必要との現場職員の意見があった。

- ・ 体育館については平成 22 年度、武道場については平成 27 年度に耐震補強工事を実施しているものの、絶対的に造りが古く、窓の開け締めのため生徒が上るキャットウォークに手摺がない。
- ・ 武道場にはコウモリや鳥が侵入してくるという問題を抱えている。
- ・ グラウンドは水はけが悪く、グラウンド隅には苔が生えている状況。駐車場は分かれて 50 台程度確保されているが、入りきらないので敷地の空きスペースに停める状況。
- ・ 中庭については、用務員によってきれいに整備されている。
- ・ 施設全体としては、老朽化や設計の古さによる狭さ、使い勝手の悪さが課題。防火設備の設置が以前の基準のままであったり、設備の老朽化による不具合も発生している。

〔胆沢中学校について〕

- ・ 全体的に広くゆとりを持った造りである。2 階建てで見通しの良い校舎となっている。
- ・ 学年毎に普通教室 2 室分の多目的スペースを確保している。
- ・ 図書室は 1 階中央に整備され、明るく開放的に利用されやすい空間となっている。
- ・ 各特別教室もゆとりを持った空間が確保されており、調理室は災害対応を考慮し、体育館近くに配置されている。
- ・ 視聴覚室兼会議室が職員室の前にあり、職員会議等の際は投影機器等を用いペーパーレス会議を実現している。P T A の会議時にも利用されているとのことである。
- ・ 相談室は職員室近くに 2 室、特別教室棟に 1 室整備されており、スペースは小さいものの、用途に応じて使い分けしているとのことだった。
- ・ 体育館は武道場や室内部活動用部室も併せて整備されており、水沢中学校体育館の約 1.5 倍の面積となっている。
- ・ 施設全体としては、市内で最新の中学校であり、生徒数や使い勝手を考慮し、ちょうど良い規模感でまとまっていると感じられた。

続いて、以上の現地確認内容も踏まえたうえで整理した案として、19 ページ以降の基本計画案を説明した。

4-1 は現地確認やヒアリング内容を踏まえ規模や配慮事項を精査したものであること。

4-2 については、敷地を東西南北の一方に寄せて配置する案をそれぞれ A～D 案とし、さらに仮設校舎を用いた場合の案を E 案として提示し、それぞれの特長を説明したこと。

● 委員長 只今説明のあった内容について、区切って質疑を進めていきたい。まず 19 ページの 4-1 施設の機能・規模（必要諸室の算定）について、質疑ないか。

● 委員 普通教室の室数について。最大一クラス 40 人としているようだ

が、もし 30 人学級となった場合、教室数が不足とならないかといった辺りを確認したい。

→ 事務局 計画案の 10 ページに水沢中学校生徒数、クラス数の現状を記載している。今年度は各学年毎の生徒数が 155 ないし 156 名（計 4 6 6 名）、クラス数は各学年 5 クラスなので、一クラスが大体 30 名程度となっている。令和 6 年度の推計では約 400 名となる見込みとなっていることから、教室数の不足といったことにはならないと考えられること。

- 委員長 30 人学級になったとして、それを更に 2 グループに分けて指導するとか少人数指導ということも考えられるが、その場合こういった対応が考えられるか。

→ 教育長 水沢中学校では現在どのように取り組んでいるか。

→ 委員 今は T T（※チームティーチング：複数の教員が役割分担し、協力して指導計画立案・指導を行う体制）でやっている。将来的には少人数指導を行うことも有り得ると思われることから、5 クラス＋1 室という構成ができれば柔軟に対応できるのではないかな。

水沢中学校の近隣を見ていると、段々家が建ってきているということもあり、（生徒数推計と）変わってくる部分もあるのではないかと感じられる。

- 教育長 生徒数の動向をもう少し精査する必要はあろう。しかし、人口統計から大まかな傾向は把握できるが、将来流入出する人口は予測しがたいという点もあること。

先程の発言にあったように、少人数指導に対応する室があれば良いことはその通り。ただし毎回使用するかということそうではないということもある。

一方、教育委員会としては現在一人一台タブレット整備ということも進めている。そうすると将来的には、（少人数指導や T T に対応した）授業のあり方も、教室を分けないといけないかということは今後の検討課題である。

小学校ではどうなっているか。

- 委員 計画案では一コマ（クラス）のサイズは 8 m × 9 m で胆沢中学校と同じ広さとなっている。前回胆沢中学校を見学したところ、30 人の机を、間隔を取って並べると結構びっしりとなっている印象を受けた。

小学校の教科書は近年大型化の傾向があるが、中学校ではどうか。机のサイズ拡大が必要となるかどうかの関連で気になるところである。

- 委員長 その辺りについては、状況把握は必要だが、教科書選定等の状況からすると、恐らく中学校は大きく変わらないのでは。

- 委員 大きく変わらない見込み。

- 委員長 とすれば、しばらくは同サイズで進むと思われる。

- 委員 少人数指導の部屋の件、中学校の話ではないが、不登校になった生徒達が、回復の途中で別室当校が必要となった時、部屋を準備するのに苦労した経験がある。中学校についてもどうしても出てくる話だと考える。一番いいのは保健室の隣辺りで、通常の生徒の登下校の動線と別に出入り

できるような部屋であれば抵抗なく出入りできると思われる。

- 委員長 現代の子供達を取り巻く環境は大変複雑になっている、不登校の子供達にどう対応していくかという課題がある。部屋が多いに越したことはないが、どういう工夫、配慮ができるか知恵を絞らないといけない。
- 委員 限られた予算の中で検討すること、どこかを増やせばどこかを減らす必要がある。最終的にはどっちを優先するか考えることとなろう。
- 委員 部屋は多いに越したことはない。現状ではある教室を何とか使って対応している。
- 教育長 この委員会では、何が必要かといったことを出してもらいたいこと。先程の議論でいえば、クラス数を増やしたほうが良いのではないかという話や、別室当校に対応する部屋が必要という話。出してもらってとは言いながら、あれもこれもとなると困るのだが。
- 委員長 予算等いろいろと制約はあるのだが、こうだったらいいなという話はどんどん出していただきたい。
- 委員 奥州市ではあまりやってないのかもしれないが、太陽光発電、自然環境に優しいエネルギーについて検討の必要があるのではないか。それは、今後、エアコン等が標準的に整備されれば、電気料も跳ね上がるとと思われるからだが、それとも、これからの時代はもう太陽光に頼る時代ではないのか。太陽光発電を取り巻く環境について、わからないが興味があったので述べた。
→ 総企画設計佐藤氏 太陽光発電を設計に入れることはあるし、電気の使用量や発電量を校内で表示して、環境問題の学習や意識啓発を狙う取り組みはよくあるものと捉えている。ただし、奥州市では、胆沢中学校も含め、これまであまり取り組み例がないようであったことから、今回の案には入れていないもの。
- 委員長 黒石小学校で小規模にやった例はある。万が一災害が起こった時の対応にもとなると、蓄電池とセットで入れれば効果的だが、コストがかかるとも聞く。
- 委員長 それでは4-1の部分については、只今いただいた意見を踏まえ、文部科学省の設置基準等様々なものを勘案してもので再度考えていただくこととしたい。

次に4-2の配置計画関係の質疑に移りたい。こちらは位置と工期とコストについて出されている。案毎に検討し、後で全体通しての発言漏れ等含めて質疑を伺いたいと考える。まず北側配置のA案について、御意見等ありましたら承りたい。

- 委員 2点伺う。1つ目として、A案に限らず、前回は3階建てとして案を提示されていたが、今回は2階建てとなっている。水沢中学校は中学校敷地としては広くはないと考えるが、2階建てにこだわる理由を伺いたいこと。

2つ目として、避難所としての機能について、大災害においては、体育館と特別教室棟が利用されることとなるが、その辺りで何か配慮し盛り込んだ点はあるのか伺いたいこと。

→ 綜企画設計佐藤氏 2階建てにこだわったという点については、配置計画について前回から再精査する中で、コストを抑える視点を持ったこと及び各案を比較する上で、階数を同じにしないと、比較の軸が多くなり收拾がつかなくなることから、今回は2階で揃えさせてもらったもの。

- 委員長 階数については、比較検討のため2階で設定したもの、ただし、検討の中で3階が望ましいということになればそれで、ということと理解した。

各案毎に質疑することは難しそうなので、提示された5案を通して見た中で、どの案でも良いので質疑、御意見はないだろうか。

- 委員 B案は南側に窓がないようだが、校舎は必ずしも南側に窓がなくても良いものか。

それから、東側の敷地に隣接して市有地がある。その方まで校地を拡張するという考えはないのか。グラウンドがどうしても窮屈であると考え

→ 綜企画設計佐藤氏 南面の窓について、各案の比較の中でも南側の窓がない案は評価を下げている。東京や密集地での学校建設においては、敷地の都合で南面に窓を設けられるとは限らない。しかし水沢中学校の場合は、都内に比べると大きな敷地があるので、この条件下で南面に窓がないということは、今の段階ではデメリットとして、評価は低くなる。

→ 事務局 御指摘のとおり、東側に市営南丑沢住宅が立地している。この住宅は現在新規入居を停止している状況であり、所管している都市計画課とも話をしているところだが、まだお住まいの方が約30人いらっしゃるとのこと。

現在、都市計画課では市営住宅の建替え計画の策定を進めているところだが、まだお住まいの方がいらっしゃる状況なので、学校（改築検討）の方で、南丑沢住宅の敷地も使うことの合意が取れていない状況である。

南丑沢住宅敷地は全て市有地であり、土地取得のコストもないので、事務局側としては、学校用地として活用の余地はあるものと捉えているが、やはり市営住宅側の事情もあるので、今の段階では触れていないもの。

今回の委員会で皆さんからぜひお願いしたいという話があり、さらに市内部での政策判断がつけば（学校用地として活用する）可能性はあるもの。

この委員会で中学校敷地としては、やはり狭いという御意見があれば、その話をもって都市計画課と協議していきたいと考えている。

- 委員 30世帯というと全体からすれば何割お住まいということになるか。

→ オブザーバー 棟が20棟、1棟に4世帯なので全体で約80世帯とすれば、約3分の1と思われる。

- 委員 建物は古く、入居者も少ないとすれば、市営住宅を建てる場所はあの場所でなくても良いとも思われる。

- 委員長 市営南丑沢住宅敷地まで広げた形で改築を考えることができ

ば、かなり余裕を持った敷地利用ができることから、当局にはぜひ実現に向け御努力いただきたい。

- 教育長 確認だが、今回の案では、配置案について検討し、2階建てか3階建てかといった内容はその後に検討していく内容である。

- 委員 基本構想で今回新たに盛り込んだ方針1を一番実現できるものというものはあるのか。

→ 総企画設計佐藤氏 方針1については、具体的には詳細設計やデザイン段階で表現していくものであり、この段階では提示した文言として整理していること、ただし前回の委員会で中庭について話題となったことから、配置案の中で可能なところには中庭を盛り込んだもの。

- 教育長 基本的には南側から採光できることは大切だとすれば、B案は却下されるものとも思われる。そういった辺りのお話をいただければ。

- 委員長 校舎建築もその時々の流行があるもの。時代時代により、例えば自分の頃は、北国なのになぜか廊下が外にあった。それが流行りだった。その後最近になってオープンスペース等様々な概念が出てきたものの、基本的な形はベーシックな考えで進めた方が良いかなと思われること。

ただ、これからの教育といったものに関わることでもあるので、現役の先生方、教育委員会からの指導を受けながら固めていかなければならないのかなと考える。例として、先程話題となった不登校の子供とか、少人数指導といった今日的な課題にも対応できるものなど。

- 委員 各案で体育館と武道場が離れているが、近くにあった方が良く考える。胆沢中学校を見ると、雨にも当たらず、すぐに移動しやすい配置である。水沢中学校も不自由なく移動できる動線を確保できたらと考える。

それから、シンプルな配置という話が出たが、自分の職場では除雪がとても大変である。入り組んだ配置だと細かい部分が除雪しにくい。

駐車場は分散するより、一体で広く確保しておいた方が、除雪もしやすく、災害時の避難場所としても利用しやすいのではないかと考える。

- 委員長 シンプルで使い勝手の良い配置、管理しやすい校舎を望むという話と受け止めた。

- 委員 コストを度外視していえば、敷地の北側に建物を配置し、教室は南側の窓から採光する形が望ましい。明るい教室、採光は大事だと感じている。

それから、先程委員長が、『換気』というポイントをお話しされたが、私も換気という点はとても重要と考える。

これまでいろいろな学校を見てきたが、廊下の両端に部屋がある学校は、空気の通りが悪く、暑いという共通点がある。

こうしたことを考えていくと3階建てが良いと私は考える。

- 教育長 只今の指摘のとおり、換気という視点は大切である。風がどの方角から入るかということは考慮した造りが望ましい。

また、体育館と武道場については東水沢中でも一体化した構造であるが、一体化することでグラウンドが広く確保できるということもあろうかと考える。

● 委員

- ・ 各案を検討していくと、グラウンドの使い方について、校舎を北側に配置し南側をグラウンドにした方が広く確保できると考える。
- ・ 職員室は体育館に近い方が良い。
- ・ 校舎内が直線で見通しが良いというのは、私が中学校の頃はそうだったが、クランクを作ってそこに多目的スペースを設けてといったように、なるべく直線を短くという流れになっている。
- ・ 階数は3階建てにしないと敷地活用の点できつくなると考える。
- ・ B案は、校舎内の配置プランニングの難しさもあるが、北西の風が当たって大変だろう。
- ・ 体育館、武道場の件については、一体とした整備例は、最近多くある形式である。
- ・ ソーラー発電の件については、環境教育のためが主目的であり、発電で電気使用量を賄うというのは大変である。
- ・ 蓄電池も問題で、性能的には過渡期。メーカーによって考え方もまちまちであり、もっても丸一日、用途としては限定的となるので、どう使うかなどよく精査しないと、ただただ費用がかかってしまうと考える。
- ・ 仮設校舎については、案を見ると10億円以上かかり現実的ではないと考える。
- ・ 水沢中学校らしさをどう出すかという点、何をどう特長づけていくか。木質化については、ただ使えば良いというものでもない。

例えば日高火防祭の何かを多目的ホールの正面に設けるなど、伝統文化をどのように校舎建築に活かしていくか。大迫中学校では神楽であるが、多目的ホールを基礎から木造にしている。そのように地域の伝統文化を校舎にどう活かしていくか考えて特色を出すと良いのではないか。

- ・ 校舎を建設する際に、生徒達を何か参画させてはどうか。記念、何十年に一度のことであるので。私の経験では、（大迫中学校多目的ホールステージ壁の）羽目板の裏に全部自分達の名前を書かせた例がある。自分の書いた板がどこにあるかわかる銘板も作ってはめ込んだ。
- ・ 奥州市の林業に対する考え方、どういう木材の種類があって、どのように使っていくのか。どんどん製材所がなくなっているという林業の現状がある。バイオマス発電については、間伐材の有効活用を狙っているのだが、ある自治体ではA材^{注1}といわれる直径70cm近いものでさえもバイオマス発電に使用している現状があり、数年後には禿げ山になってしまうことが危惧されるようなこともある。そうした地域の林業の現状を、子供達が学べるような校舎の造り方ができないか、そうした市の現状や特色をどこかで飲み込めるよう理念に反映できないか。鉄筋コンクリートの中に木材をはめるとか、横走りのように木材をはめる等も良いのではないかと感じる。

● 委員長

今意見があった、水沢の伝統文化をどのように校舎に表現していくかということや、生徒の建設への参画を図ってはどうかということは大変大事

なことと思う。

こうしたことはもっと次の段階で検討すべきことにも関わってくるので、現時点での御意見を、配置計画の範囲まで含めて皆様からいただきたい。

- 委員 提示された校舎配置の各案を見ると、北側配置が良いと感じる。東側配置や南側配置は採光面とか通風、風の影響を考えるとちょっと難しいと捉えた。ここはそうでもないかもしれないが、佐倉河小学校の辺りだと北、西方向からの吹き下ろしの風がかなり強い。

- 教育長 この辺りも西風が強い。水沢小学校は砂嵐が起きる。岩谷堂小も敷地北側に校舎があり、校庭に風が吹きつけてくるため砂埃がすごい。前沢小学校も然り。この地域は西風をどう防ぐかという課題がある。そうすると、A案で北側、D案で西側配置案となっているが、南部曲がり家のように西・北側にL字に配置してはどうかという発想もある。また、そこから発展して、『心の字』^{注2}の形にした校舎とする等の発想もある。

なお、南側案は却下して良いのではないかと考える。

- 委員長 南側案については、住宅地に面することにもなり、あまり相応しくないであろう。

また、水沢中学校の辺りも西風が強く、かつてポプラを植えたのもそうした事情によるもの。ただし今は、桜のような落葉樹を植えることも周辺への配慮で難しい状況とも思われるので、校舎の配置等の方法で対応を考えていくことになるうか。

- 委員

- ・ 多目的ホールについて、1学年5クラスとして考えると、例えばA案だと、1学年に2クラス分のスペースしかないが、これでは狭い。多目的スペースはある程度広く確保したいと考える。
- ・ 体育館について、胆沢中学校と比べても体育館が狭いということだが、体育館が狭いということはこの50年間言われ続けてきたことである。

そこで、2つの体育館を一体化することで、1つのものを大きくすると共に、敷地の有効活用が図れるのではないか。

また、武道場と一体化して広く作れるのであれば使い勝手も良いと考える。

- 委員長 今出た話については、体育館はできるだけ大きくということ、そして多目的ホールも大きくということである。多目的ホールについては、先程も話題となった少人数指導や生徒数が増えた場合の対応とか、いろいろ柔軟に使えるのではないだろうか。ということを見ると2クラス分より広く確保できれば、集会などの他、いろいろ有意義に使えるのではないと思う。

- 委員 避難所としての機能を持たせるということを考えるのであれば、災害発生の際に、どこからどこまでを災害対応エリアと教育機能エリアとして区切るかということ想定してほしい。

今回提示された案のうち、A案を例にとると、体育館と特別教室が離れていることや区切りが難しい内容となっているが、全て開放する形では学校管理が難しい。

災害時の活用エリアについての視点も持って、今後計画を進めていってほしい。

- 委員長 学校が避難所として活用される場面も想定されることから、きちっと対応できるよう、動線やエリアの区切りをどうするか、家庭科室の配置場所にも関わってくる大切な部分と思われる。

- 委員 避難所として使うときには昼の部屋が欲しくなると思われる。妊産婦やお子さん、高齢者などのための配慮となる。

→ 事務局 奥州市の一次避難所は、地区センターが指定されている。水沢中学校は2次避難所になっており、1次避難所である地区センターで収容しきれない避難者を収容する等の役割がある。

地区センターには、このような1次避難所の役割のため、必ず日本間、昼の部屋が設けられているものである。

- 教育長 避難所としての活用でいえば、去年の台風19号の時に学校に避難した事例があるが、いろいろと課題が出てきた。例えば、体育館だと雨音が大きく睡眠の妨げとなること、寒いということ、それから情報取得の手段としてテレビが見られないこと。ちなみに、この事例では、校長の判断で校舎の多目的ホールを使用許可し、避難者を移動させて対応した。

ともあれ、1次避難所が地区センターであり、学校に避難する事例というのがなかなかないのだが、想定はしていく必要があるものと捉える。

- 委員長 災害対応について、どこまで配慮し考えていくかということもある。学校も避難所として使われることも『有り得る』、というスタンスで設計を進めたら良いのではないかと思われる。

- 総企画設計佐藤氏 今後の検討委員会としては残り1回、予定としては今月末を予定されていると把握している。次回に向け、これまでいただいた御意見等を踏まえて修正していくものである。

いただいている御意見の中には、かなり具体的な内容も出ているところだが、今回の基本構想・基本計画の中では、案を特定することはしないこととしており、今回提示した案についても、案に対しこのような意見がありましたといった形でまとめさせていただくこと。

例えば具体的な話題として、昼が欲しいといったものも、必要諸室のところに付記する形で、『このような意見がありました』のように記載し、あとは、実施設計の段階において、こうした意見を加味して進めていくことになろうかと考える。

- 総企画設計秋保氏 建築においては、設計、施工そして完成までの間に、これを盛り込む、盛り込まないといったことは十分できることから、今回皆様からいただいた意見は、『このような意見がありました』といった程度に留めさせていただくものとして御理解いただきたい。

- 委員長 基本構想、基本計画の部分なので、これまでいただいた御意見はきちっと記載する形とし、実施設計の段階で、いろいろと取入れられるものは取入れるということにつながっていくものと捉える。

今日ここまでいただいた意見を取り入れ、調整していただき、次回最終案として御確認いただくこととしたいがよろしいか。（異議なし）

以上で本日用意された議題について終了する。

- 事務局 いただいた御意見について、盛込めるものは盛込み、反映させるべきものは反映させ、また委員会の中で検討いただきたい。

事務局より、次回の開催日については、現時点での日程について、この後確認のうえ決めたい旨連絡し、了承された。

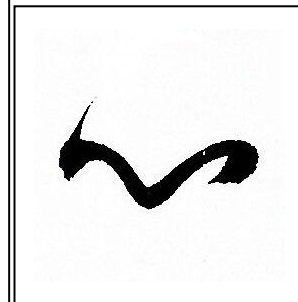
[参考]

※注1 A・B・C・D材：木材の主に曲り等の形状等品質や用途により分類する通称。
A材は通直な原木のことであり製材に用いられる。
B材はやや曲っていたり小径の原木であり合板や集成材に用いられる。
C材は曲がり材や枝条でありチップや木質ボードに用いられる。
D材は搬出されない林地残材等だが、木質バイオマス発電の燃料などとして利用されることが期待されている。

※注2 心の字
水沢の街の成り立ちについては、町の中心である水沢城と六町（川口町、立町、柳町、大町、横町、袋町）を、防御上の理由と繁栄への願いから「心」の字形を象って整備したものとされている。
心の字を象る構造物としては、一般的には、日本庭園において、『心』を崩した字形に似せて池を作る『心字池』が挙げられる。



心字池の例(日比谷公園)



心の崩し字の例